

1 最も保存義務期間が長いのはどれか。

- a 処方箋
- b 診療録
- c 病院日誌
- d 手術記録
- e エックス線写真

2 浮腫をきたす疾患はどれか。

- a 尿崩症
- b アジソン病
- c 甲状腺機能低下症
- d 副甲状腺機能亢進症
- e 汎下垂体機能低下症

3 前脛骨筋の筋力低下がある場合にみられる歩行障害の特徴はどれか。

- a 痙性歩行
- b 鶏状歩行
- c 動揺性歩行
- d すくみ足歩行
- e 脊髄性失調歩行

4 溶連菌性咽頭扁桃炎の症候でないのはどれか。

- a 発熱
- b 咽頭粘膜の発赤腫脹
- c 扁桃滲出物
- d 前頸部リンパ節腫脹
- e 鎖骨上リンパ節腫脹

5 72歳の男性。20年前から健康診断で高血圧を指摘されていたが、放置していた。脳出血を最も起こしやすい部位はどれか。

- a 小脳
- b 橋
- c 視床
- d 被殻
- e 大脳皮質下

6 消化管穿孔による腹膜炎でみられるのはどれか。

- a 下痢
- b 下腿浮腫
- c 筋性防御
- d 眼瞼結膜の貧血
- e 鼠径リンパ節腫脹

7 男女で血液・生化学検査の基準値が異なるのはどれか。

- a 白血球数
- b 総ビリルビン
- c ヘマトクリット
- d 空腹時血糖
- e 血小板数

8 スクリーニング検査について正しいのはどれか。

- a ROC曲線は縦軸が「特異度」、横軸が「1－感度」である。
- b 陽性尤度比は感度を偽陽性率で除したものである。
- c カットオフレベルを下げると特異度は上がる。
- d 同一の検査で感度を上げると特異度も上がる。
- e 偽陰性率は「1－特異度」で表わされる。

9 65歳の男性。腹痛と嘔吐のため救急車にて来院した。

昨日から排便がなく、今朝から腹痛を認め、嘔吐が頻回となった。

嘔吐物は緑色で、腹部は全体に膨満し、腸雑音は高調である。2年前に胃癌で開腹手術を受けている。

まず行うのはどれか。

- a 便の細菌検査
- b 上部消化管造影
- c 嘔吐物の潜血検査
- d 腹部エックス線撮影
- e 上部消化管内視鏡検査

10 心不全の症候として考えにくいものはどれか。

- a 喘鳴が聞かれる。
- b 下腿に浮腫を認める。
- c 心窩部の膨満感が生ずる。
- d 臥位になると呼吸困難が軽減する。
- e 就寝1～2時間後に息苦しさを感じ、布団の上に起き上がる。

11 近年、自殺のことを「自死」と言い換える動きがある。

主な理由とされているのはどれか。

- a 自殺者は日本では処罰されないから。
- b 未遂者の気持ちを楽にする必要があるから。
- c 自死という言葉は武士を想起させて潔い印象だから。
- d 国の統計などが「自死」という表記に変わってきているから。
- e 「殺」という文字が入っていることで遺族の心を傷つけるから。

12 ハインリッヒの法則について正しいのはどれか。

- a 倫理指針
- b 医療の質改善の方法論
- c 根拠に基づいた医療提供の法則
- d チーム医療による診療情報提供
- e 重大事故の背景にあるヒヤリ・ハットの存在

13 正しいのはどれか。

- a 視神経乳頭は、黄斑の耳側にある。
- b 直像鏡の拡大率は、倒像鏡より小さい。
- c 直像鏡では、眼底周辺部まで観察可能である。
- d 倒像鏡では、眼底は上下左右逆に観察される。
- e 正常眼の網膜血管は、動静脈比が1対3である。

14 アトピー性皮膚炎の合併症として誤っているのはどれか。

- a 白内障
- b 緑内障
- c 円錐角膜
- d 網膜剥離
- e 虹彩毛様体炎

15 医療面接の意義で誤っているのはどれか。

- a 治療方針の同意を得る。
- b 診断のための情報を得る。
- c 良好な医師患者関係を築くため行う。
- d 疾患に対する患者教育に有用である。
- e 多くの患者を診察するためのスクリーニングである。

16 36歳の男性。2か月前から仕事が手につかず、会社の上司から受診を勧められ来院した。診察の結果、1か月程度の休養が必要と診断され、治療を開始した。数日後、会社から診断書を発行して欲しいという電話連絡を受けた。

正しい対応はどれか。

- a 本人の同意を得て欲しい旨を伝える。
- b 家族の同意を得て欲しい旨を伝える。
- c 直ちに診断書を作成し本人あてに郵送する。
- d 直ちに診断書を作成し家族あてに郵送する。
- e 直ちに診断書を作成し会社あてに郵送する。

17 医療面接の場面を示す。

- ① 医師 「こんにちは。本日の診療を担当します北里太郎です。」
「南郷次郎さんですね。」
- ② 患者 「はい、南郷次郎です。」
- ③ 医師 「今日は、どのようなことで来院されましたか。」
- ④ 患者 「1 か月前から夜中に胸がしめつけられるように痛いので来ました。」
- ⑤ 医師 「もう少し具体的に話していただけますか。」
- ⑥ 患者 「明け方4時頃に胸が痛くて目覚めることがあります。」
- ⑦ 医師 「胸の痛みはどのくらい続きますか。」
- ⑧ 患者 「目覚めて3-4分で痛みは和らぎますが、全くなくなるのには10分程度かかります。」
- ⑨ 医師 「その後、どうされますか。」
- ⑩ 患者 「横になって1-2時間眠った後に起きます。」
- ⑪ 医師 「その後はいかがですか。」
- ⑫ 患者 「起きてしまえば大丈夫です。不思議に何も起きません。」
- ⑬ 医師 「胸の痛みについてどう考えておられますか。」
- ⑭ 患者 「以前に、逆流性食道炎と言われたことがあるので、これではないかと思っています。」
- ⑮ 医師 「そうですか。それでは、診察の後にいくつかの検査をしてみましょう。」

心配・解釈モデルの聴取はどれか。

- a ③
b ⑤
c ⑨
d ⑬
e ⑮

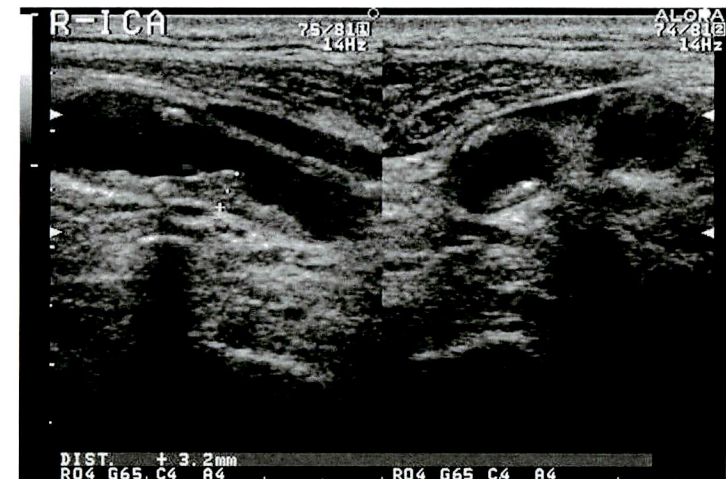
18 52歳の男性。検診の頸動脈超音波検査で異常を指摘され受診した。自覚症状はなし。身長172cm、体重65kg、血圧128/76、飲酒：1 合/日、喫煙歴なし。

血液生化学検査で、LDL-C 155 mg/dl（基準：140以下）、TG 165 mg/dl、FBS 90 mg/dl、HbA1c 5.2%であった。検査の異常は初めて指摘されたとのこと。

頸動脈超音波検査を示す。

方針として正しいのはどれか。

- a 禁酒を勧める。
b 経過観察でよい。
c 降圧薬を開始する。
d 頭部MRI検査を行う。
e 糖尿病薬を開始する。



頸動脈超音波検査

19 62歳の女性。昨夜から上腹部痛が出現したため来院した。体温38.2℃、血圧148/72 mmHg。血液所見：赤血球 480万、Hb 12.8 g/dl、Ht 38%、白血球 12,800、血小板 21万。血液生化学所見：総ビリルビン 2.8 mg/dl、AST 68 IU/l、ALT 32 IU/l、CRP 4.8 mg/dl。右肋間走査による腹部超音波写真を示す。

腹部診察所見で認められるのはどれか。

- a Murphy徴候
- b Rovsing徴候
- c Lanzの圧痛点
- d Grey-Turner徴候
- e Mc Burneyの圧痛点



腹部超音波写真

20 46歳の女性。生来健康であった。数週間前より風邪気味であった。

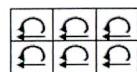
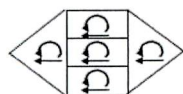
昼ごろ、仕事中に突然、強い吐き気と回転性めまいを自覚した。救急車にて来院した。

意識は清明。バイタルサインは異常なし。四肢、顔面の運動障害、知覚障害は認めず。難聴、耳鳴、および耳閉塞感は無かった。その他の脳神経症状に異常は無かった。

眼振所見を示す。

異常が認められる検査はどれか。

- a 聴性脳幹反応 (ABR)
- b 頭部単純MRI
- c 鼻指鼻試験
- d 温度眼振検査
- e ティンパノメトリ



眼振所見



21 58歳の女性。右第1指の色素斑を主訴に来院。数年前より自覚し、徐々に拡大してきた。臨床写真を示す。

対応として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 光線療法
- c 凍結療法
- d 皮膚生検
- e 広範囲切除



臨床写真

22 58歳の男性。事務職員。健康診断後の保健指導のため社内診療室に来室した。身長 165cm、体重 68kg、腹囲 86cm、脈拍 70/分、整。血圧 144/90mmHg、喫煙歴はない。飲酒はビール大瓶2本/日を38年間。尿所見：蛋白 (-)、糖 (-)。血液生化学所見：空腹時血糖 98mg/dl、トリグリセリド 152mg/dl、HDL-コレステロール 40mg/dl、LDL-コレステロール 148mg/dl (基準65 ~ 139)、AST 35 IU/l、ALT 20 IU/l、 γ -GTP 80 IU/l (基準8 ~ 50)。心電図に異常を認めない。摂取エネルギー量 1,800kcal/日、脂質摂取量 90g/日、塩分摂取量 11g/日、食物繊維摂取量 10g/日。

必要性が低いのはどれか。

- a 減塩
- b 節酒
- c 低脂肪食
- d 野菜摂取の奨励
- e たんぱく摂取量制限

- 23 37歳の男性。右下肢のしびれを主訴に来院した。1年前から腰の痛みを運動後に自覚していた。3か月前から再び右下腿外側のしびれを自覚している。腱反射は上下肢ともすべて正常。徒手筋力テストでは右母趾と足関節の背屈力が4となっている。

診断に最も有用な検査はどれか。

- a 筋電図
- b 腰椎CT
- c 腰椎MRI
- d 下肢超音波検査
- e 下肢全長エックス線

- 24 22歳の女性。数日前よりまぶたが重く、足がむくんで靴が履きづらくなり来院した。前脛骨部に圧痕性浮腫を認める。

必要のない検査はどれか。

- a ALT
- b アルブミン
- c クレアチニン
- d 甲状腺ホルモン
- e 心房性ナトリウム利尿ペプチド

- 25 59歳の女性。交通事故で救急搬入された。

現病歴：助手席に座っていたところ、右折してきた対向車と衝突した。シートベルトは装着していなかった。右胸部痛を訴えている。

既往歴：特記事項なし

現 症：意識清明。脈拍112/分、整。血圧90/60mmHg。頸静脈怒張と冷汗を認める。心音は微弱。

右肺野で呼吸音を聴取しない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見：胸部レントゲンで右肺に気胸を認め、縦隔が左に偏位していた。

処置としてまず行うのはどれか。

- a 輸 血
- b 昇圧薬投与
- c 緊急開胸手術
- d 胸腔ドレーン挿入
- e 人工呼吸器装着

- 26 65歳の男性。朝起きた時にまぶたが開かず、右手足の力が入りにくくなったので来院した。左の眼瞼下垂および左眼の外転位と瞳孔散大を認める。右上下肢の運動麻痺と深部腱反射の亢進を認める。

考えられる病巣部位はどれか。

- a 左大脳半球運動領野
- b 左内包
- c 中脳左側
- d 橋脳左側
- e 延髄左側

次の文を読み、27～28の問いに答えよ。

62歳の男性。息切れを主訴に来院。28歳より健診で蛋白尿、血尿を指摘されていたが放置。40歳より高血圧を指摘され降圧薬を内服していた。1か月前より労作時の息切れを自覚するようになった。来院時、身長165 cm、体重70 kg。脈拍 96/分、整。血圧168/95 mmHg。眼瞼結膜に貧血あり。肺野清。心雑音なし。腹部に異常所見なし。両下腿に浮腫を認める。尿所見：蛋白2+、糖（-）、潜血2+、蛋白定量 2.0g/日。血液所見：赤血球 235万、Hb 7.8 g/dl、Ht 24 %、白血球 6,500、血小板 25万。血液生化学所見：総蛋白 6.4 g/dl、アルブミン 3.3 g/dl、尿素窒素 75 mg/dl、クレアチニン 6.2 mg/dl、尿酸 8.3 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 6.2 mEq/l、Cl 110 mEq/l、Ca 7.3 mg/dl、P 5.8 mg/dl。腎臓超音波所見を示す。



腎臓超音波所見

27 この患者の病態はどれか。

- a 無症候性蛋白尿血尿
- b ネフローゼ症候群
- c 急性腎炎症候群
- d 急性腎不全
- e 慢性腎不全

28 この患者の食事療法として正しいのはどれか。

- a 低エネルギー食
- b 高ナトリウム食
- c 高カリウム食
- d 低脂肪食
- e 低蛋白食

次の文を読み、29～30の問いに答えよ。

26歳の女性。16歳時に側頭葉てんかんに罹患し、現在までカルバマゼピンを服用している。頭部MRI上、側頭葉に異常信号域は見いだされない。近年は複雑部分発作が年に数回、二次性全般化発作が年に1回生じている。最近婚約し、来年には結婚する予定で、将来は子供を産みたいと希望している。

29 現時点で担当医が本人に尋ねておくべき事項として最もふさわしくないのはどれか。

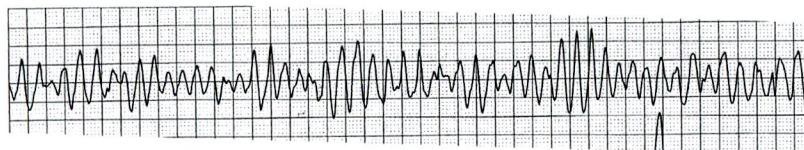
- a 疾病利得があるか否か。
- b 現在妊娠しているか否か。
- c 発作の誘因があるか否か。
- d 服用を遵守しているか否か。
- e 婚約者に病状を知らせているか否か。

30 今後の注意点について最もふさわしくない説明はどれか。

- a 「飲酒は避けて下さい」
- b 「過労は避けて下さい」
- c 「喫煙は避けて下さい」
- d 「妊娠は避けて下さい」
- e 「偏食は避けて下さい」

次の文を読み、31～32の問いに答えよ。

70歳の男性。生来健康。駅のホームで突然倒れた。意識は刺激にも反応なく、呼吸を感じることができず、頸動脈でも拍動をふれないことからCPRを開始した。ホームにあったAEDを装着したところ図のようなモニター波形であった。



モニター波形

31 この心電図所見で正しいのはどれか。

- a 心室頻拍
- b 心室細動
- c WPW症候群
- d 心室性期外収縮
- e 発作性上室性頻拍

32 この患者の心肺停止の原因として最も考えやすいのはどれか。

- a 肺気腫
- b 脳出血
- c 食道静脈瘤
- d 急性心筋梗塞
- e 腰部脊柱管狭窄症